

# さわれる文化財 -質感を伴った高精度の模写による文化財保存- デジタルとアナログの融合

東京芸術大学・教授 **宮廻 正明**

## 科学研究費助成事業(科研費)

文化財科学、美術史学、制作技法の情報統合による『薬師寺吉祥天画像』の復元模写研究

(2008-2010 基盤研究(C))

模倣と超越—美術における学習と創造—

(2011-2013 基盤研究(B))

2012-2013

筑後広域公園芸術文化施設アートウォール制作

「法隆寺旧金堂壁画5,6,7号壁」

「高句麗古墳群江西大墓四神図のうち青龍」

2012-2014

平等院ミュージアム鳳翔館復元国宝扉絵複製画刷新

北朝鮮の世界遺産「高句麗古墳群」の一つである江西大墓は、高句麗の古墳壁画の中でも傑作と評価されているが、現在は劣化が進んでいる。

故 平山郁夫前東京芸大大学長が、約30年前に入手したフィルム写真をデジタル処理して鮮明化。細かく砕いた岩や砂を貼り付けた紙に高精細印刷し、細部を壁画と同じ顔料で彩色(特許第4559524号)。

天井部分を除いた石室を実物大で複製・復元。触れることができる文化財として、平山郁夫シルクロード美術館(山梨県北杜市)で公開(平成24年3月16日~6月25日)。質感を伴った高精度の模写により、文化財の保存と公開を両立。世界中の文化を共有し、教育や文化外交、アートビジネスに活用できる可能性。



図1 シルクスクリーンで壁画の質感を再現



図2 プリンターで図柄を印刷



図3 手彩色による調整。原本と同じ天然色料を用い、画家の感覚で彩色を加えることで、絵画として自然な仕上がりとなる。



図4 完成した複製(玄武)。花崗岩の質感や量感まで感じられる模写となった。



図5 復元した石室の入口。中に入り壁画の迫力を体感することができる。